

## 日本及びシンガポール有料老人ホーム入居者の意味ある作業の開発 －高齢者の健康寿命の延伸をめざして－

宮前珠子<sup>\*,1)</sup>、萩田邦彦<sup>2)</sup>、Tang, Hwei Lan<sup>3)</sup>、森本真太郎<sup>4)</sup>、馬場博規<sup>5)</sup>、  
山田美代子<sup>6)</sup>、山下拓朗<sup>7)8)</sup>

<sup>1)</sup>聖隷クリストファー大学(SCU)、<sup>2)</sup>浜名湖エデンの園、<sup>3)</sup>ナンヤン理工学院(NYP)、

<sup>4)</sup>日本福祉大学、<sup>5)</sup>磐田市立総合病院、<sup>6)</sup>静岡英和学院大学、<sup>7)</sup>掛川市立総合病院

**目的：**日本及びシンガポールの有料老人ホームに暮らす健康高齢者の生活時間、作業歴、及び生活満足度を明らかにし、高齢者の暮らしや意識について国際比較し、その結果を基に健康維持に寄与する為の意味ある作業の開発を目的とする。

**方法：日本：**2017年度は対象者が主体的に取り組む意味ある作業開発のためのアクションリサーチを行った。

**対象：**A 老人ホーム入居者のうち 2016 年度の研究対象者となった 17 名のうち、今回の研究の説明を受け、考慮期間において同意の得られた者。

**方法：**①2016 年度研究結果概要を対象者にフィードバックしグループ及び個別話し合いを行う。

②グループもしくは個人で取り組みたい作業や活動についてディスカッション、ブレインストーミングを行う。

③話し合いをまとめ、優先順位と実施する作業、参加者をについて検討する。

④対象者による計画立案と実行。⑤実施した作業の振り返りと評価

**シンガポール：**対象：B 高齢者住宅住人で、H 活動センターに通う者。募集に応じ、研究の説明を受け考慮期間において同意した 20 名程度

**方法：**作業遂行歴面接、生活満足度について半構成的インタビューによりデータ収集する。データ処理と分析、考察。

両国の比較・検討：日本については 2016 年度に得たデータ、シンガポールについては 2016, 2017 年度に得たデータ、結果について比較・検討、分析し、共通点や差異、その原因等について分析、考察する。日本、シンガポールそれぞれ倫理委員会承認後実施。倫理委員会承認番号：S C U:17046, N Y P:SHS-2017-001

**結果：A 老人ホーム。**前年度の協力者 17 名全員から研究協力の同意が得られ、約 2 ヶ月間隔で 3 度の話し合いを持った。各回の参加者は約 10 名であった。1 度目：前年度の結果のまとめの報告と今後の活動について話し合い。2 度目：今後の希望を個別的、具体的に明らかにするためカナダ遂行測定を用いて話し合い。3 度目：前回参加者の中で、COPM の考えを知ったことにより自身の重要な作業を認識し、価値の高い作業に取り組み、遂行度、満足度が 1 から 10 になった者が見られた。今後各利用者の重要な作業の実現に向けて取り組みを続ける予定である。

**B 高齢者住宅：**23 名が募集に応じ、作業遂行歴面接及び生活満足度調査を行った。23 名の内訳は男性 5 名、女性 18 名、年齢 60-76 歳、平均 66.9 歳であった。

1%未満の危険率で有意の相関が見られたのは①「生活満足度」と「家族関係」、「気分」、②「経済状態」と「健康」③「健康」と「気分」、「経済状態」であった。

**考察：**A 園の協力者と B 住宅居住者の生活満足度との関連要因を比較すると、A 園では生活満足度と最も相関が高かったのは経済状態、B 住宅では家族関係となった。理由は種々考えられるが、A 園の協力者は 80 代で有料老人ホーム在住、B 住宅の協力者は 60 代で高齢用の住宅在住であることが影響しているように思われた。

**学会発表：**2018 年 9 月開催の第 52 回日本作業療法学会で発表予定。